

第 45 号 2021 年 10 月

発行者：NPO 法人 介護の家コスモス男山

〒614-8372 八幡市男山笹谷 4-2 D19-106

TEL：075-983-2737 FAX：075-983-2746

e-mail：kosumosuot@gol.com

ホームページ検索用語 ⇒ 「コスモス男山」

<https://kosumosuot.sakura.ne.jp/hp/>

## 法人設立 15 年を迎えて — 認知症の「入り口問題」と 1 つの提案 —

介護保険が施行されて 20 年経過しました。この制度の功罪は多くの識者から指摘されているところですが 100% 評価する方は皆無と言っていいでしょう。介護保険は詐欺だとする断罪型から介護の社会化が一定成功を収めたとする肯定型とそれら双方の間に多くの異見があります。ここでは医療保険の利用は被保険者の自由裁量で決められるのに対して介護保険は認定を受けなければ利用出来ないという自己決定権の無さと施行当初の法理念が改定の度に後退している点が少なからずあるというこの二点を指摘するに留めておきます。

さて厚労省の予測では 2025 年には認知症の方が 700 万人になり高齢者の 2 割が認知症に罹るといいます。かって、洛南病院の医師らが所謂「入り口問題」を提唱し、認知症の早期発

見・加療がこの病の進行速度を遅らすことが出来るとし大きな反響を呼びました。また同時に「入り口」という原点に認知症の方を留め置くことの困難性も指摘されました。

そこで提案です。認知症の方を「入り口」に誘うためにはその方を介護する方—多くの場合配偶者、子供—の支援が必要です。つまり介護者のストレス・疲労感からの解放、自由時間が欲しいという希望の一端を実現するための宅老所的な空間を提供する提案です。言い換えれば介護認定を受けていても利用が困難な方の一時的避難場所を提供することで介護者が安息の時を得、介護の負担感を少しでも削ぐことが出来ればと考えています。

起業の要は人、物、金だといえます。ご支援ご協力宜しくお願い申し上げます。

常務理事 井上 和彦



# コスモス アラカルト

## コスモスの手作りゲーム ～その1～

コスモス男山には、創立の頃から工夫して作られた、素敵な手作りのゲームが色々あります。あそびそのものはどれもシンプルだけど、絵やしつらえがとても美しいのです。

その中の一つをご紹介します。少しだけ出ている紐を引っ張って、長さを競います。



① これは何？



② 中は？



③ わくわく！



④ どこまで続く？

## コスモス七夕祭り 踊った！振った！笑った！

部屋を暗くして、花火のDVDで始まった「コスモス七夕祭り」。花火の余韻が残る暗闇に職員扮する鼠小僧が登場！大判小判をばらまいて、アッという間に消え失せた。

いよいよ本日のメイン、マツケンサンバ。オーレ♪オーレ♪の音楽に、利用者さんと職員の腰元ダンスがあでやかにサンバを踊る。みんなで手作りポンポンを軽快に振って盛り上がる中、キンキラキンの衣装を纏ったマツケン（職員で座長！）登場。ハードなダンスに足がつりそうになりながら、なんと、全3回公演を踊り切った！

一番の話題は、利用者さん扮する腰元の美しさ。当の利用者さんのキラキラした眼差しと笑い声、忘れられません。



## ボランティア・グループ「ふきよせ」

10年前、コスモス男山が地域の居場所づくりにと「コスモス男山 203」を開設した時、最初に申し込みがあったグループです。前身は「黄色いハンカチ」で当時、家事援助等の支援をしていてそのグループの数人から出発しました。今から30年前の事です。現在は高齢の一途をたどり、平均年齢は93歳ぐらいとか。活動内容は洗ったシーツや衣類を使い易い大きさに切って「捨て布」として介護施設（コスモスも頂いています）に配布する事です。



その他、不織布でアームカバーや着物地等で袋物も作って「福祉の店」に出品する事もあります。かつて障害者も積極的に活動されていた事は特徴的ではないかと思えます。現在の会員数は6名で最近では亡くなる方や足、腰、肩の不調で参加出来なくなる方もいて「最後は消滅でしょうか」と代表の寂しいお言葉でした。しかし、地域の中で地道に活動されてきた形跡はいろいろな形で残されていく事と思いました。みなさんが一同にして言われた事は「月4回集まるここが憩いの場です。又、終わった後に『おいでやす 103』でのランチが美味しいので楽しみです。」と。（理事長 井上一枝）

## 徒然カフェさつき

「徒然カフェさつき」は、「コスモス喫茶 103」の2Fにあるコミュニティスペース「ひだまり」利用のグループです。月1回の開催(第3火曜)です。

2018年4月、社会の第一線を引いた退職者の方々、特に男性は近所の方とのコミュニケーションが女性に比べて少ないのではないかとのおもいから、有志4人の男性によって立ち上げられました。



現在は、男性だけでなく女性も参加するようになって会員数23名かな？平均年齢は？秘密！！ヒント：全員高齢者。ちなみに徒然カフェとは、気の向くままにちょっと寄ってみると

いった感覚から名づけられました。

テーマがある時もフリートークの時もある。日常茶飯事のたわいない会話でも、趣味の広さや人生経験の豊かさ、知識の深さで、おもしろく楽しく味わい深い時間が流れます。

コロナ禍での部屋は、席は離して設置し、エアコンは作動しても窓は開けて全員マスク着用、と非日常的。早くコロナが終息してほしいものです。（文・絵 さつき会員 岡本智子）

## 介護現場のプライバシー保護、大学生の体験実習受入

### 「介護現場のプライバシー保護」の研修を受けて

日頃、介護職として利用者の個人情報をどのように考え扱っているのだろうか。

3年ごとに改訂される「個人情報保護法」の前の改訂では本人の権利保護が強化され違反に対するペナルティも当然、強化された。今後は超高齢化社会に向けてのICTの活用等のビッグデータの漏洩も要注意であるが同時に噂話として個人情報を漏らしてしまう事も重大である。講師は最後に『介護福祉士倫理要綱』を提示され介護職員は何よりも利用者の人権を守る立場にあることを強調された。

今後、職員間で機会を設けてその重要性を確認していきたいと思います。(理事長 井上一枝)



### 大学生の体験実習受入

8月30日～9月3日までの5日間、花園大学福祉介護コースの学生5名を介護実習生として受け



入れました。コロナ禍でしたが、学生の方に学んでいただける場を提供できたら、と直前のPCR検査実施と1日1名という条件で、来ていただきました。

短い時間でしたが、住み慣れた地域や家で少しでも長く暮らしていただくために、どのような支援をしているのか、小規模多機能の特徴を理解して下さったように思います。学生さんの感想を抜粋で紹介します。(所長 西村宜子)

Aさん：

食事を胃ろうで摂取し、特別養護老人ホームを利用されてもいいのでは？と思える方がおられました。ご家族が「最期まで家で生活してほしい」とコスモスを利用されていると聞き、地域密着型サービスとはどういうことなのか、小規模多機能型居宅介護が社会資源として果たしている役割について考えさせられました。

Bさん：

職員さんと利用者さんだけでなく、利用者同士でも馴染みの関係性が築かれていると感じました。また、同じ事業所でも、2つの部屋で雰囲気が違うのが面白いと思いました。バルーンを装着している男性から直接話を伺えたのも収穫で、様々な職種の方と連携していく必要性を再確認しました。

## コスモス文芸

### 俳句

- 大に非ずコロナ時代の大文字
- 夜の雷怯える猫に寄り添いし

かつら

- 豊年やそろばん二けたばんきょう中

みやこ

- 秋日影旧姓の載る文芸欄

- 秋風や五本の指はすべて墓

信

- 蓑虫みのむしのマツチ六本ほどの家

### 川柳

- 猫のため冷房完備万年床

- 泣いてますコロナ犠牲のふぐちようちん

かつら

## ☆ コスモス男山の活動状況 ② ☆

### 活動日誌 2021年6月～2021年9月

- 6月** 1日：「コスモスだより」44号発行 6日：第16回定時総会（書面評決） 13日：207洗面所床改修工事 17日：八幡市シェイクアウト訓練参加／消防用設備点検 20日：204便所パーパーホルダー位置替え 28日：2F北面廊下壁面北大阪地震によるクラック補修（～7月10日） 30日：市／防災安全課 地震対策協議
- 7月** 1日：夏季賞与支給及び面談／介護予防わくわく教室再開（15日にも開催）／全職員PCR検査実施（～3日。結果、全員陰性） 4日：壁付TV取り付け（耐震対策。11日にも工事） 7日：調理会議／七夕飾り 14日：七夕祭り 17日：オレンジカフェ（再開） 26日：運営推進会議 27日：調理職検便 28日：「コスモスだより」編集会議 29日：全職員PCR検査実施（～31日。結果、全員陰性）
- 8月** 5日：介護予防わくわく教室（19日にも開催） 11日：緊急調理会議 16日：登録特定行為（胃ろう又は腸ろうによる経管栄養）事業者認定 26日：全職員PCR検査実施（～28日。結果、全員陰性） 30日：花園大学生実習受け入れ（～9月3日）
- 9月** 2日：介護予防わくわく教室（16日にも開催）／地域包括ケア全体研修会（Web2名参加） 4日：第7回八幡多職種連携を考える会（Web2名参加） 15日：理事会 26日：全職員PCR検査実施予定 27日：第3回運営推進会議（書面会議）

### 今後の活動予定

- 10月** 1日：処遇改善交付金前期支給／「コスモスだより」45号発行
- 11月** 1日：「八幡おうえん飲食券」事業に参加（～2月28日）

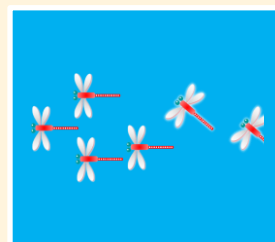
書名	著者	発行所
紅紫の館	穂高健一	未知谷
だまされ屋さん	星野智幸	中央公論社
やさしくなれる認知症の在宅介護	板東邦秋	ワニブックス
史上最大の革命—ワイマイル共和国の幕開け—	ローベルト・ゲルヴァルト	みすず書房
狸の腹鼓	宇江敏勝	新宿書房
農泊のすすめ	宮田静一	弦書房
牛鬼の滝	宇江敏勝	新宿書房
呪いの釘	宇江敏勝	新宿書房
主権者のいない国	白井聡	講談社
過激派の時代	北井一夫	札幌宮の森美術館
自立へ追いたてられる社会	広瀬義徳他	インパクト
高瀬庄左衛門御留書	砂原浩太郎	講談社
コロナ禍の東京を駆ける	小林美穂子	岩波書店
蔓延する東京	武田麟太郎	共和国
いのちがけ加賀百万石の礎	砂原浩太郎	講談社

事務局より

みなさまからご寄付をいただきました。

- ・指月の尾上さんよりお米を
- ・ふきよせさん、和田さんから捨て布を
- ・奈良在住の匿名さんから百万円の寄付を
- ・泉の千坂さんよりCDを

ありがとうございました。



編集後記

秋天の下、たわわに実った柿の木の姿はとても美しい光景です。収穫を心待ちにさせられます。

甘柿や干柿を食べる折には、口の中で、種と格闘しなければなりません。天与の甘味です。しかも、食した後の種を植えると、次の春には小さな双葉が現われ、次世代へ繋がる「命がめぶいた瞬間」に立ち会えます。柿に限らず植物の種は、SDGs（持続可能な開発目標）の申し子のようなのです。

古代遺跡から柿の種が発掘されているように、栗や桃などの果実と同じく、日本人の生活樹として古くより活用されてきました。また、柿はその効用が特段であるので、「同志樹」とあるという人もいます（今井敬潤著『柿の民俗誌』）。確かに、「柿は医者泣かせ」と言われてきただけでなく、生活の各面で我々はその恩恵に浴してきました。

ところで、『柿の種』といえは、寺田寅彦さんの有名な随筆集です。その巻頭に「棄てた一粒の柿の種／生えるも生えぬも／甘いも渋いも／畑の土のよしあし」とあります。この本で柿について触れているのは巻頭のものだけですが、呪文のようであり、或は、農作の奥伝を記しているようです。SDGsにも関連する土づくりの重要性を記しているとも言えるのではないのでしょうか。

地球温暖化の悪弊が顕著になっている昨今、次世代のために地球再生の路を急がなければならない時期に人間が直面しています。

「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」は、近代俳句の金字塔の一つとされていますが、二〇二一年、この鐘の音は地球危機への警告と聴こえないでしょうか。

老生は、子々孫々まで連綿と続く地球の持続を希求するしだいです。（三礼）